

図画工作科学習指導案

令和4年5月30日（月） 第5校時 第6学年1組（第1図工室） 指導者 貞永 瞳

【題材】「けしてかいて 見えるもの」（絵に表す）

考察	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
育成を目指す資質能力	- 線の種類や濃淡を理解する力 (共(1)ア) - 消しゴムや指などにかく方法を工夫する力 (A(2)イ)	- 消しゴムや指などにかく方法について考える力 (A(1)イ) - 線の種類や濃淡を基に、自分のイメージや思いをもつ力 (共(1)イ)	消しゴムや指などにかく方法を工夫しながら気持ちを表現することや、線の種類や濃淡から表現されている気持ちについて想像する活動を楽しむ態度
子どもの実態	- 線や点で抽象的に表現した平面作品の製作では、自分が表したい不思議な世界の実現に向けて、線や点のかき方、色の組合せ方などを工夫することができる。 - 消しゴムや指などでこすことは消すことであるという認識が強く、消しゴムでこすることがかく方法の1つということに気付いていない。	- 線や点で抽象的に表現した平面作品の鑑賞では、色と線や点を結び付けたり、色に着目したりしながら、イメージや思いを広げることができた。 - 形と色合いの組合せ方からイメージや思いを広げていくことが多く、形や濃淡に着目してイメージや思いを広げていくことが難しい。	- 楽しみながら意欲的に絵や立体、工作で表す活動に取り組める。 - 造形的な特徴を基に、造形活動や作品のよさや美しさを感じ取ることが難しい。
価値	・本題材は、黒色の紙に白色のチョークで白色に塗った後、消しゴムや指などでこすったりなでたりすることで、紙の地の色が現れることを生かすものである。紙の地の色が見えるように線にかく方法は、消しゴムの角や面でこすって線の太さを調整する、指でこすったり、練り消しゴムを押し付けたりして濃淡を調節するなど様々である。強さや回数などによっても線の太さや濃淡を変化させられるため、表したい気持ちに合わせて表現を工夫できる。また、目に見えない気持ちを線の種類や濃淡を工夫しながら表すことは、言語化することが難しい自分自身の気持ちについて深く見つめ直すことにつながる。特に6年生として2か月を過ごした子どもたちにとっては、現在の自分自身と向き合い、表したい気持ちや要因となる出来事について考えるよい機会となる。見つめ直した気持ちを線の種類や濃淡に置き換えて表現すると、比較的容易に1つの表現から様々な気持ちを感じ取ることのできる抽象的な表現になるため、写実性を重視する発達段階の子どもにおいても、自信をもって活動に取り組める。さらに、他者の作品における線の種類や濃淡から表したい気持ちを想像することで、同じ気持ちでも表す線の種類や濃淡が異なることに気づき、他者の表現の工夫を楽しむことにつながる。 - 消しゴムや指などでこすった時の線の種類や濃淡に着目すると、消しゴムや指などでもかけることに気付ける。 - 白色の部分と黒色の部分の両方を造形的に捉えることにより、線の種類や濃淡を理解できる。	単色の描画材や大きさの異なる消しゴム、トイレットペーパーや練り消しゴムなどの用具を用いて造形活動を行うことにより、線の種類や濃淡に着目してかき方を試せるため、線や濃淡からイメージや思いをふくらませることができる。	消しゴムや指などにかく方法を試すと表したい気持ちに合う線の種類や濃淡を使い分けたり、偶然できた線の種類や濃淡を楽しんだりできるため、造形的な特徴を基に、作品のよさや美しさを感じ取ることができる。
見方・考え方	消しゴムや指などにかく方法を試す活動を線の種類や濃淡の視点で捉え、自分のイメージや思いをもちながら意味や価値をつくること。		
今後の学習	中学校の絵に表現する学習（鉛筆でかく、自画像）へと発展していく。		

指導と評価の計画

目標	消しゴムや指でかく方法による線の種類や濃淡の変化に気付き、自分の表したい気持ちに合う方法を選びながら表現する。			
評価 規準	(①知・技) 消しゴムや指などでかく方法によって線の種類や濃淡が変化することを理解し、手や体全体の感覚を働かせながら、かく方法を工夫している。 (②思・判・表) 線の種類や濃淡から表したい気持ちに対するイメージや思いを広げ、消しゴムや指などでかく方法を考えている。 (③主体的態度) 消しゴムや指などでかく方法を工夫して気持ちを表す造形活動や、表したい気持ちを表現した作品のよさや美しさを感じ取ることを楽しもうとしている。			
過程	時間	学習活動	指導上の留意点	評価項目<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」
であう	1	○提示された抽象的な平面作品を見て、感じ取った気持ちやその理由について考える。	○1つの表現から感じ取れる気持ちは、人それぞれ異なることに気付けるように、同じ作品から感じたイメージや思いについて友達と話す時間を十分に確保する。	◇提示された平面作品の色や形などの特徴を基に、感じ取った気持ちについて発言をしている。 ＜発言③＞
	1	○黒色のロール紙に白色のチョークで塗ることや、消しゴムや指でかけることを知り、試しにかく。 ——学習のめあて—— 消しゴムや指でかく方法を工夫して、自分の表したい気持ちを表現した絵をかこう	○様々な線の種類や濃淡に気付けるように、机上に黒色のロール紙を用意し、かき方を試す時間を設定する。	◇消しゴムや指などでかく方法について気付いたことを記述している。＜ロイロノート①＞
ひろげあう	1	○試しの活動において消しゴムや指でかいた線の種類や濃淡を基に、表したい気持ちについてのイメージや思いをウェビング図で広げる。	○今の自分が表したい気持ちについて、イメージや思いを広げられるように、4月にかいた自分の気持ちを振り返り、現在までの変化について考える機会を設定する。	◇自分が表したい気持ちについて広げたイメージや思いを、ウェビング図に記述している。 ＜ロイロノート②＞
	3	○消しゴムや指などで、四切の黒色画用紙に表したい気持ちを表す。(本時2/3)	○消しゴムや指の他にも様々な用具でかく方法を試せるように、図工室の中心に用具コーナーを設置し、練り消しゴムやトイレットペーパーなどを用意する。	◇線の種類や濃淡を生かして、表したい気持ちを消しゴムや指などでかいている。 ＜行動・作品①＞
ふりかえる	1	○線の種類や濃淡の視点で鑑賞し、作品のよさや美しさを伝え合う。	○消しゴムや指などでかく方法による線の種類や濃淡のよさや美しさに気付けるように、作品を並べて見る機会を設定する。	◇線の種類や濃淡を基に表現した気持ちについて想像し、よさや美しさを記述している。 ＜ロイロノート③＞

本時の学習（４／６時間目）

ねらい 消しゴムや指などでかく方法を試すことを通して、線の種類や濃淡を生かして自分の表したい気持ちをかき進めることができる。

評価項目 線の種類や濃淡を生かして、表したい気持ちを消しゴムや指などでかいている。

<行動・作品①>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
１ 本時のめあてをつかむ。 ・ 6年生になってできた新しい仲間と団結しながら、学校のリーダーとして過ごしたいという気持ちでかき始めたよ。前は団結したい気持ちを表すために、チョークを立てて濃く塗った後、筆で伸ばしたり、消しゴムでゴツゴツした形をかいたりしたのだったな。 ・ 友達は指でこすってかいて穏やかな気持ちを表したのか。ぼくも指でこすってぼんやりした線をかいて、6年生らしい優しい気持ちを表したいな。（目的意識）	○ 本時で行う活動の見通しがもてるように、これまでの活動の振り返りを見て、前時までにいった消しゴムや指などでかく方法の工夫と、それによって広がったイメージや思いについて想起するよう促す。 ○ かき方の工夫によって感じるイメージや思いが異なることを実感できるように、様々な線の種類や濃淡で表現している子どもの作品を共有し、消しゴムや指などでかく方法と、感じるイメージについて問いかける。
めあて：消しゴムや指などでかく方法を変えながら、自分の表したい気持ちをかき進めよう	
２ チョークや消しゴム、指などを使って、表したい気持ちをかく。 ・ 前回筆で伸ばしたチョークを、さらに指でこすってみようかな。まだチョークで塗った部分が足りないから、チョークの粉と筆をもってきて広げよう。 ・ 試しのロール紙にあった曲線がおもしろいから、ぼくも筆をウネウネさせながらチョークの粉をのばしたよ。太くて薄い線で全体的に白っぽくなったから、さらにぼんやりやわらかい線になるように、指でこすってみよう。 ・ 指でこすったらチョークが紙に馴染んで、ふんわりとやわらかい線がかけたぞ。全体的に優しい気持ちに包まれているようになったけれど、団結と色が違いすぎて気になるな。友達は消しゴムで軽くこすってチョークをのばしたり、何度もこすって真っ黒にかいたりしているぞ。ぼくもゴツゴツした部分とやわらかい線が段々と繋がって見えるように、消しゴムで軽くこすってかいてみよう。 ・ ゴツゴツした形とやわらかい線が自然とつながるようになってきたぞ。団結すること、優しさがあふれ出ているようにするために、やわらかい線の縁を、消しゴムで何度もこすったり、チョークで縁取ったりしてかいてみよう。 ・ 黒い線と白い線でやわらかい線を縁取ったら、ゴツゴツした形からやわらかい線が出てるように見えてきたぞ。線が強調されていい感じだな。隣の友達の作品は真っ黒にかいた部分と真っ白に塗った部分が対照的で力強さを感じるな。 ・ 消しゴムで何度もこするとはっきりとした線になり、指でこするとぼんやりとした線になる。こする回数によって色の濃さが変わることもわかったから、かき方を工夫して、団結や優しさをかき分けられたよ。（目的を達成した意識）	○ 消しゴムや指などでかく方法を試せるように、中央に設置した用具コーナーにあるチョーク、練り消しゴム、トイレットペーパーなどを、気持ちを表す線の種類や濃淡に合わせて使うよう助言する。 ○ 表現に迷っている子どもが表したい気持ちに合う線の種類や濃淡を選べるように、つかむ過程で様々な消しゴムや指などでかく方法を試したロール紙の掲示物から、取り入れたいかき方について問いかける。 ○ 消しゴムや指などでかく方法による線の種類や濃淡の変化に気付けるように、力加減や回数を変化させ線の種類を試している子どもや、用いる用具を変えて線の太さや濃淡を試している子どもを称賛し、全体に紹介する。 ○ 自分が満足のいく表現にできるように、これまでに表現できたことや表現の意図について問いかける。 ○ イメージや思いをより広げられるように、活動が停滞している子どもには、ウェビング図にアイデアをかき足したり、様々な方法や用具でかく方法を試したりしている子どもの様子を紹介する。 ○ 線の種類や濃淡の工夫とイメージや思いを結び付けながら表現できるように、本時に取り入れたかき方の工夫と、広がったイメージや思いについての文章や記録写真を残すよう促す。
３ 本時の学習の振り返りをする。 ・ 消しゴムや指などでかく時は、こする回数や強さを変えると線の種類をかき分けられるのだな。次回は下級生と上手に話ができて悔しい気持ちを、もっと細かい線で表したいから、消しゴムの角でかいてみようかな。	○ 本時までの成果や課題を自覚し次時の仕上げの見通しがもてるように、思い通りにできたかき方と、自分のイメージや思いに対して足りない表現について問いかける。